

第20回記念 MASコンペティション

MAS

カンファレンス2020

20th Anniversary MAS Competition

このたびMASカンファレンス2020

(第20回記念 MASコンペティション)を開催することとなりました。

MAS (Multi-Agent Simulation) とは、実社会における

複雑系の現象を分析し課題を解決するための手法です。

本カンファレンスでは、参加者による利用事例の発表と

講演を通し、MASの可能性や今後の展望について議論します。

多くの方のご参加をお待ちしております。

日程：2020年3月6日(金)

9:30～18:00 (終了後に懇親会を開催します)
※時間は予定です

会場：六本木アカデミーヒルズ

東京都港区六本木6丁目10番1号 六本木ヒルズ森タワー 49F

東京メトロ：日比谷線「六本木」駅1C出口より徒歩3分(コンコースにて直結)
都営地下鉄：大江戸線「六本木」駅 3 出口より徒歩6分

コンペティション

MASを用いた研究や応用事例などについて、学生や研究者の方々が発表いたします。(フラッシュトークとポスター展示による発表)

部門①

研究・実務への応用成果

部門②

萌芽的プロジェクト／独創的な利用

講演

基調講演

Social Physics:

Data-Driven Analysis and Computational
Modelling of Human Social Connectome

Aalto University
School of Science
(フィンランド) 計算科学科
教授

Kimmo Kaski 氏



招待講演①

都市防災と シミュレーション

東京大学大学院
工学系研究科
都市工学専攻 准教授

廣井 悠 氏

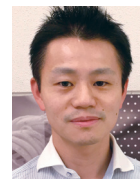


招待講演②

フェイクニュース現象と 社会シミュレーション

名古屋大学
大学院情報学研究科
複雑系科学専攻 講師

笹原 和俊 氏



詳細・お申し込み

<https://mas.kke.co.jp/news/masconference2020/>

お問い合わせ：第20回 MASコンペティション事務局 Tel: 03-5342-1273 Email: mascompetition20@kke.co.jp

参加費
無料

■プログラム

AM / 午前の部

9:30 ~ 10:00	開会挨拶・趣旨説明
10:00 ~ 12:00	コンペティション①
12:00 ~ 13:00	昼食休憩 (お弁当をご用意いたします)

※暫定版であり、詳細は今後変更となる可能性があります。

PM / 午後の部

13:00 ~ 15:00	コンペティション②
15:00 ~ 18:00	講演
18:00 ~	懇親会

■講演

基調講演

Social Physics:

Data-Driven Analysis and Computational Modelling of Human Social Connectome

ネットワークの理論を応用した大規模なデータ分析とコンピュータモデリングにより、今後の社会制度の設計のために重要な社会的構造についての知見を得ることができる。本講演では、携帯電話データを用いた分析により、人々の社会行動のパターンや人間関係のダイナミクス、季節・地理的条件がそれらに与える影響、様々なスケールの社会ネットワークが形成されるメカニズムなどを明らかにした研究事例について紹介する。

Aalto University
School of Science
(フィンランド) 計算科学科
教授

Kimmo Kaski 氏



Aalto University School of Science (フィンランド) 計算科学科 教授、The Alan Turing Institute 客員研究員などを務める。研究分野は物理、経済、社会・情報システムにおける複雑系、社会ネットワークに着目した計算社会科学。

招待講演 ①

都市防災とシミュレーション

本講演では、大都市避難シミュレーション、巨大災害時疎開シミュレーションなどの研究事例を紹介しつつ、都市空間の安全・安心を実現するうえでシミュレーション技術がどのように使われているか、そしてこれからどのようにに活用されるべきかの展望を紹介する。

東京大学大学院
工学系研究科
都市工学専攻 准教授

廣井 悠 氏



東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 准教授。平成28年度東京大学卓越研究員、JST さきがけ研究員などを兼任。専門は都市防災、都市計画、防災学。

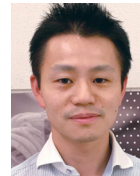
招待講演 ②

フェイクニュース現象と社会シミュレーション

フェイクニュース現象は、情報の生産者と消費者が様々な利害関係の中でつながりあった情報生態系で生じる複雑な現象であり、民主主義を揺るがす深刻な社会問題である。本発表では、フェイクニュースの温床となるエコーチェンバーが発生する仕組みについて、社会シミュレーションを用いて検討する。さらに、情報技術によってエコーチェンバーを緩和する方法について議論する。

名古屋大学
大学院情報学研究科
複雑系科学専攻 講師

笹原 和俊 氏



名古屋大学 大学院情報学研究科 複雑系科学専攻 講師。JST さきがけ研究員、名古屋大学 大学院情報学研究科付属グローバルメディア研究センター 講師を兼任。計算社会科学のアプローチでコミュニケーションの複雑系を研究。

■コンペティション 昨年度の発表題目例(一部)

コンサートの
一体感を生むための
ファンの同調意識の
検証

企業間人材P2P型
シェアリング・プラットフォームの
マルチエージェント・
シミュレーションによる評価

公共調達における
時間増加バウンティ方式
適用の検証

組織の
パフォーマンス最大化を
目的とした形式知の
蓄積方法に関する考察

テーマパーク
来場者に対する
混雑抵抗の導入と
その効果

マルチエージェント
シミュレーションによる
バイクシェアリングシステム
導入効果の定量的評価

持続可能な人工林齢級
構成平準化策の
マルチエージェント評価